

檮だより

2019. 7. 2



オツモエタイ生がやってきた！

ニュージーランドの提携校オツモエタイ高校から、10名の生徒と引率のハンセン先生がやってきました。6月29日から7月7日まで、本校で授業や行事に参加したり、平和公園やマツダミュージアムに行ったり、色々な体験をすることになっています。

なぜこんなに盛ん？広島なぎさの国際交流！

本校では国際交流がとても盛んです。でも、それは交流の機会を沢山設ければできるというものではありません。今回は生徒10名ですが、5月には同じくニュージーランドのパサデナ中学校から19名の生徒がやってきました。実は、これらの生徒のホストファミリーは全て異なっています。つまり、生徒だけでなく、保護者も国際交流に積極的に参加・協力をして下さっているのです。

数年前、本校はホストファミリーの登録制度を作りました。年々登録数が増え、今では常時40くらいの御家庭の登録をいただいています。また、ホストファミリーとの連絡や、滞在中のスケジュール調整、その他諸々の仕事をする部署を教育開発部といい、長年の経験をもとに臨機応変に多彩なプログラムを遂行しています。学校全体で留学生を受け入れる態勢ができています。



ホストファミリーとの対面式を終えて（玄関前）

交流の内容もひと味違う！

さらに、交流の内容も他とはちょっと違うユニークなものが多いと思います。例えば、オツモエタイ高校の生徒達は平和学習のために平和公園に行きますが、そのとき「留学生のための広島ガイド」（通称「なぎさガイド」）という本校の生徒が同行します。この「なぎさガイド」は、英語で平和公園の案内をし、留学生達の平和学習をサポートします。登録制になっており、今年は60名以上が登録しました。

「盛ん」なのには理由がある！

海外へ行く機会や海外からの訪問が多いというだけでは、国際交流を長く続けることは難しいでしょう。本校では前述のパサデナ中学校との交流がもう25年も続いています。生徒・保護者・教員それぞれが、国際性を身につけることを本気で考えていて積極的に行動していること、それをサポートする態勢が出来ていること、そして、留学生だけではなく、本校の生徒にとっても充実した交流プログラムが構築されていること、それらが息の長い国際交流を支えています。広島なぎさの国際交流が盛んなのには、それだけの理由があるからなのです。

オツモエタイ高校を紹介します

オツモエタイ高校は、Otumoetai College (オツモエタイ・カレッジ) といい、ニュージーランド東海岸のタウランガという美しい都市に位置しています。創立は、1965年。(同じ年、本校は中高一貫校になりました。) 日本の中学校3年生から高校3年生までの学年に該当する生徒約2000人が在籍しています。校訓は「Let Learning Enlighten Life」(豊かな人生のために学べ) といい、広島なぎさの教育に通じるものを感じます。

本校は毎年6~7月にオツモエタイ高校の生徒を10~15人程度受け入れ、7~8月に4年生の中から希望者が20名程度ニュージーランドで3週間の短期留学を体験します。オツモエタイ高校も訪問して交流します。



オツモエタイ高校全景



タウランガ湾南端にあるマウンガヌイ山

ところで、6月30日の夕方、本校の食堂でオツモエタイ高校の生徒達とホストファミリーの対面式が行われました。そのとき、一目でアジア系とわかる男子生徒がいたので声をかけると、ルーツはマレーシアということでした。私は嬉しくなって、彼に、「私にはマレーシア人の息子がいる」と言いました。「20年近く前、たった1週間だけ私の家にホームステイをした男の子で、そのまま日本の大学を出て日本の企業に就職し、今は日本人と結婚して子どもも二人いる。その間、ずっと私をお母さんと呼んで連絡をしてくれる」と。彼はその話を聞いて、「わあ、素敵なお話ですね」と言ってくれました。オツモエタイの生徒の滞在も1週間です。今回結ばれた絆が、これからもずっと続くことを願わずにはられません。